



のびる ほどっ子！

ほっとな未来へ 3C！

令和8年4月30日
横浜市立保土ヶ谷小学校
学校長 宮生 和郎

雨ニモマケズ 風ニモマケズ... そういう人に私はなりたい

校長 宮生 和郎

だれもが一度は触れたことのある、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」。4月27日の朝、その詩の冒頭を思わせるような情景が、保土ヶ谷小学校の昇降口に広がっていました。

その日は登校する時間帯に雨風が強まり、多くの児童がズボンや靴下をびしょびしょに濡らして登校してきました。特に、まだ登校そのものに慣れていない1年生にとっては、しんどい一日の始まりだったと思います。付き添ってくださった保護者の方や上級生のさりげないサポートもあり、靴下が濡れていても工夫しながら過ごそうとする姿が見られました。しばらくすると、昇降口の慌ただしさも落ち着き、ほとんどの児童は何事もなく教室に向かっていきました。中には、ランドセルまで覆われる完全防備のカップとブーツを脱ぎ、普段通り教室に向かう児童もいて、子どもたちのたくましさを感じるとともに、「雨ニモマケズ」という詩の一節が自然と心に浮かびました。

「雨ニモマケズ」はこう続きます。

「雪にも夏の暑さにも負けぬ 丈夫なからだをもち 欲はなく 決していからず
いつも静かに笑っている」

近年の暴風雪や酷暑を思うと、容易に立ち向かえるものではありません。しかし、賢治は単に健康な体をつくることだけを伝えたかったのではなく、人の力ではどうすることもできない自然の出来事や、思い通りにならない困難に出会ったときでも、心を折られない強さをもつ人間でありたいという願いをこの詩に表したのではないのでしょうか。

雨風がなくとも楽しい土日を過ごした後の月曜日を憂鬱に感じることは、子どもにも大人にもあると思います。そのような心の状態の中でも気持ちを切り替え、「学校に行く」「学びを続ける」選択をすることが、いかに大切であるかを、今回の出来事を通して改めて感じました。そして学校に来たからには、少しでも多くのことを学んで帰ってほしいという思いで、その日は各クラスをまわりました。

先週は多くのクラスで学級目標を考えたり、「～な〇年生でありたい」という話し合いをしたりしていました。その中には、「誰にでもやさしくできる〇年生。」や「学ぶときは本気で学ぶ、遊ぶときは本気で遊ぶ〇年生」「支える 頼られる リードする」「和衷協同」といった声も聞かれました。そこには、「雨ニモマケズ」で賢治が伝えたかった、自己を律する強さや他者のために力を尽くそうとする思いが重なります。保土ヶ谷小学校の子どもたちなら、きっとそれぞれの「なりたい自分」に近づいていけると、心から感じています。

【今年度の水泳指導について】

3月末、メガロス天王町店より、施設の都合により小学生の水泳授業の委託を全店舗で受けることができないとの連絡がありました。直ちに教育委員会事務局に報告し、本校のプール設備の状況について調査を行いました。その結果、全面的な改修が必要であることが判明し、今年度プールを使用した水泳指導を実施することができなくなりました。今年度につきましては、ビデオ学習等を活用し、水泳に関する知識の習得や水難事故防止に関する指導を中心に行う予定です。事情をご賢察のうえ、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。